

「笑顔の学校」を目指して ～コミュニケーション能力の育成～

可児市教育委員会

1 はじめに

可児市は“マイナス10カ月から つなぐ まなぶ かかわる 子育て”のもと定めた「可児市教育大綱」を実現するため、平成27年度に「可児市教育基本計画」(後期計画)を策定し、平成31年度(令和元年度)を最終年として、様々な施策を行ってきました。現在は、本市の子育ての基本理念を引き続き継承し、学校と教育委員会が子どもの教育に関係する様々な機関や部署、家庭や地域と連携し、社会全体で関わっていく教育を目指し、新たに学校教育を根幹とした「可児市教育振興基本計画」を策定しています。可児市では、「学校は本来楽しいところ」「学習等に一生懸命取り組んで、できて・分かって楽しい」「仲間と一緒に活動することが楽しい」と、子どもたちが喜びを感じた時に“笑顔”になり、このような「笑顔の学校」を学校教育の目指す姿としています。また、未来社会を切り拓くための資質や能力を養い、多様化する社会において、一人一人が持続可能な社会の担い手として活躍するために、本市では、「コミュニケーション能力の育成」に取り組んでいます。



2 活動内容

(1) ココロとカラダワークショップ

可児市文化創造センター・ala(アアラ)と連携し、市内小中学校においてワークショップを体験する事業を実施した。

① 目的

演劇やダンスの要素を活用しながら、言葉だけではない“表現”で相手の気持ちを受け取り、相手に自分の気持ちを伝える。この活動を通し、今まで気付かなかった友達の新たな魅力を発見したり、仲間と活動することの楽しさを体験したりして、認め、認められる関係性を築く。

② 内容

- ・講師 新井 英夫、黒田 百合(Ten Seeds)
- ・開催時期：4月末～7月(前期)、10月～12月(後期)
- ・対象：小中学校(クラス単位)

※所要時間は1時間30分

③ 応募方法

- ・各校より応募票を提出。希望のあった学校と調整して開催日を決定

④ 開催実績

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
開催回数	28	40	38	63	71
参加校数	5	5	6	10	14



ワークショップの様子

※小中学校以外にも、適応指導教室(スマイリングルーム)においても実施

※平成30年度より、初任者研修の夏季講座(一般教員の参加も可)として実施

⑤ アンケート結果

- ・体験した児童生徒の95%が「楽しかった」と回答（資料1参照）

《参加者の声》

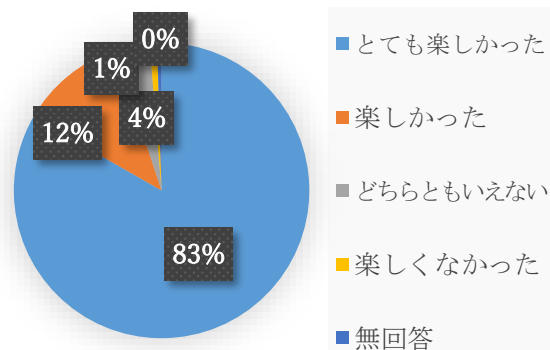
- ・楽しく過ごせたからとてもいい気持ちで家に帰りました。（小4）
- ・伝わった時のうれしさや、達成感があった（中1）
- ・心の底から楽しい子供らしさがいっぱい引き出して頂けた。（小3担任）

- ・体験した児童生徒の84%が、ワークショップを通して、友達と仲良くなれた（はじめて話せた）。（資料2参照）

《参加者の声》

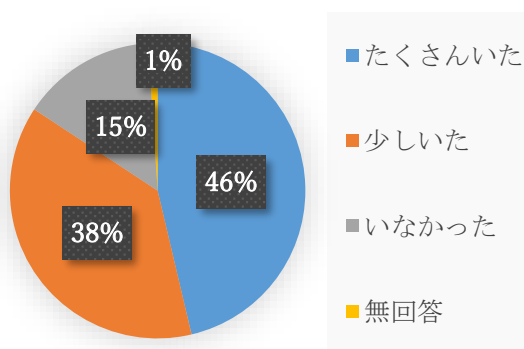
- ・人は言葉以外でも通じているんだなと思いました（小3）
- ・いやなイメージだった子もいいイメージに変わった（小5）
- ・「まわりが笑顔」だとつられて笑顔になるんだと思いました。（中1）
- ・友達の動きを受け入れ、真似て、一緒に情の感情ができ嬉しい発見がありました。（小2担任）

（資料1）Q. ワークショップに参加して楽しかったですか？



平成30年度（対象：1857人）

（資料2）Q. 仲良くなれた（はじめて話せた）友達はいましたか？



平成30年度（対象：1857人）

3 活動の成果と課題

- 集団において、相互理解・共感しながらワークショップを行うことができた。集団に馴染めない児童も講師の援助があり、よさの体感を味わうことができた。コミュニケーションワークショップの実施が、「開かれた個」の育成につながっている。また、良好な人間関係づくりによって、不登校児童生徒の増加を未然に防ぐ一つの要因として今後も期待できる。
- 教師もワークショップに参加することで、その手法を学級経営に生かしたり、子どもを見る視点が揺さぶられたりするなど、教師の教育力向上にもつながった。

4 終わりに

ココロとカラダワークショップを実施して5年目が経過しました。現在は、可児市のすべての小学校で実施できるまでに広げることができました。それも、可児市文化創造センター・ala(アーラ)の協力もあり、改めて学校と関係機関と連携することで、子どもにとって貴重な体験ができるとともに、効果的な教育効果をあげることができると感じました。地域の様々な資源を利活用することで、子ども達が笑顔になり、そして、「笑顔の学校」になりました。学校とそれを取り巻く関係機関との良好なコミュニケーションが、子どものコミュニケーション能力向上に繋がると言えます。